

国語科学習指導案

5年3組 30名 指導者 星原 貴光

本授業では、以下の検証を行うものである。

伝記を小集団でかかわり合いながら読むことは、伝記に描かれた人物をより多面的に捉え、自分の生き方について深く考えたり、進んで幅広いジャンルの本を読んでいこうとする読書意欲の向上につながったりする手立てとなっていたか。

1 単元 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう

「百年後のふるさとを守る」／「本は友達」

2 目標

幅広いジャンルの本を読んでいこうとする意欲を高めることができるようにするとともに、読書を通して自分を見つめ直し、自分の生き方について考えることができるようにする。

3 単元の評価規準

- 自分の生き方について考えるために、進んで伝記を読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

- 伝記に描かれた人物の言動や業績などを多面的に捉え、自分の経験や考えと比べながら読むことで、自分の考えを広げたり深めたりしている。【読む能力】
- 伝記の構成や表現方法などを分析的に読み、伝記の特色を捉えている。【読む能力】
- 伝記に描かれた人物と自分との共通点や相違点を見つけ、共感するところや取り入れたい所などを簡潔にまとめ、人物事典などに書き表している。【書く能力】
- 分からない語句について、辞書などを進んで活用して調べている。【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元では、伝記を読むことを通して、新たな読書の楽しさに気付かせたり、自分の生き方について考えさせたりしながら、進んで幅広いジャンルの本を読んでいこうとする意欲の向上をねらいとしている。

教材「百年後のふるさとを守る」は、実在する人物を題材にしたノンフィクションの伝記であり、史実に基づきながらその生涯を感動的に描いている。この話の中で取り上げられている人物「浜口儀兵衛」は、かつて紀州藩広村（現在の和歌山県広川町）で暮らす人々の命を、地震による津波から救った偉人である。その儀兵衛の知恵と勇気、そして村の再生のために尽くした生涯は、1937年から約10年間「稲むらの火」という話として、小学校の教科書にも掲載され、多くの人々に読み継がれてきたという。

伝記は、誰もが一度は手に取ったり、読んだりしたことのある読み物である。よく知られているものとしては、「本は友達」の中でも紹介されている「エジソン」や「ヘレン＝ケラー」、日本人の中では「坂本竜馬」や「野口英世」などが挙げられる。また最近では、プロスポーツ選手の自伝も多く出版され、さらには、子ども用に編集し直し、親しみやすく工夫した人物事典や漫画でまとめた伝記等は、多くの子どもの人気を集めている。




ところで伝記は、分厚く難解なイメージがあり、子どもにとって人気のジャンルとは言い難い。しかし、この期の子どもたちが進んで伝記を読み、読書を通して自分を見つめ直し、生き方について考える機会を充実させることは大変意義深い。そこで本単元では、伝記を読むために必要となる知識や技能(伝記の特色である文学的な描写部分と説明的な描写部分とを読み分けることや、主たるエピソードを並べながら時間を追ってその人物の生涯を書いていく伝記特有の構成など)をしっかりと学ばせ、読みの力を高めていくようにしたい。

ここでの学習は、第6学年教材「やまなし」において、「イーハトーヴの夢」から読み取れる宮沢賢治の生き方・考え方を踏まえて文学作品を読む学習や、複数の描写部分を交錯しながら、自分の体験や思いを効果的に綴る「随筆を書こう」などの学習へとつながっていく。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、読書に関する興味・関心は高いが、読書の対象が物語に偏りがちで、幅広いジャンルの本を進んで読もうとする態度が身に付いているとは言えない。そこで、本単元では、伝記という新しいジャンルの読書を通して、偉人の生き方から自分を見つめ直すという読書の新たな楽しさを味わわせたい。そのために、中核教材の読みでは、リテラチャー・サークルの手法を取り入れて、複数の役割に分かれて読んだことを小集団で交流させながら、自分の考えを広げたり深めたりできるよう、かかわり合いの場を工夫していくようにする。

5 指導計画（総時数10時間）

過程	主 な 学 習 活 動【評 価 規 準】	時間
課題をつかむ	<p>1 これまでの読書経験や自分の読書傾向などについて振り返る。</p> <p>2 世界の偉人をまとめた事典「心をそだてるはじめての伝記101人」（講談社）を読み、詳しく調べたい人物を選んだり、関連する伝記や図書を探したりする。</p> <p>3 「百年後のふるさとを守る」「本は友達」を読んだ後、学習のめあてを協議し、学習計画と読書計画を立て、単元の学習に見通しをもつ。</p> <p>伝記を読み、人の生き方について考えよう。</p> <p>【関：自分の生き方について考えるために、進んで伝記を読もうとしている。】</p> <p>幅広い分野の伝記を読もうとする意欲を高めるために「世界偉人マップ」を用意し、世界地図の中に読書記録を書き込めるようにする。また、学級内に「伝記コーナー」を設け、並行読書を推進していく。</p> 	1 1
	<p>4 教材「百年後のふるさとを守る」を分析的に読み、構成や表現方法など伝記の特色を捉え、人物の生涯をまとめるための観点を見付ける。</p> <p>伝記では、人物の生涯を「生い立ち」「エピソード」「主な業績」「作品」「行動」「会話」「残した言葉」などの観点でまとめることが多く、調べたことを分かりやすくまとめるためには、「年譜」や「紹介カード」、「人物事典」などの様式が適していることに気付かせたい。</p> 	1
情報をもとに考える	<p>5 物語のように書かれている部分と、事実の説明や筆者の考えが書かれている部分とを読み分けながら、伝記の書かれ方について気付いたことを発表し合う。</p> <p>【読：伝記の構成や表現方法などを分析的に読み、伝記の特色を捉えている。】</p>	1
	<p>6 事実の説明が書かれている部分を取り出し、年譜にまとめる。</p> <p>年譜づくりを通して、事実の説明が書かれている部分と物語のように書かれている部分とを読み分けられるようにし、伝記では人物の説明を、時系列に並べて構成していることに気付かせたい。</p> 	1
	<p>7 「儀兵衛」の行動や会話が物語のように書かれている部分を取り出し、生き方や考え方を自分の経験や考えと比べながら読む。</p>	1
	<p>8 「儀兵衛」の生き方について、また、筆者が考える「儀兵衛」の生き方の意味について、今の自分の生活や生き方と比べて考えたことをグループで話し合い、「生き方」について考える。</p> <p>【読：伝記に描かれた人物の言動や業績などを多面的に捉え、自分の経験や考えと比べながら読むことで、自分の考えを広げたり深めたりしている。】</p> <p>【言：分からない語句について、辞書などを進んで活用して調べている。】</p>	1 (本時)
主体的に表現する	<p>9 自分が興味をもった偉人について調べ、これまでの学習を生かしながら人物事典にまとめる。</p> <p>【書：伝記に描かれた人物と自分との共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたい所などを簡潔にまとめ、人物事典などに書き表している。】</p>	2
	<p>10 出来上がった人物事典を交流し、感じたことや考えたことを踏まえて、人の生き方について自分なりに考えたことをノートに書く。</p>	1

6 本 時（7/10）

(1) 目 標

自分の経験や考えと照らし合わせて、伝記に描かれた人物の生き方や、筆者のものの見方・考え方について感想をもつことができる。

(2) 評価規準

伝記に描かれた人物の言動や業績などを多面的に捉え、自分の経験や考えと比べながら読むことで、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【読む能力】

(3) 指導に当たって

まず「つかむ・見通す」過程では、学習計画表や短冊等で学習の経過や進め方を想起させ、本時の学習に見通しをもたせる。次に「調べる」過程では、リテラチャー・サークルの手法を取り入れ、小集団に分かれて役割を決めて読んだり、ディスカッションしたりしながら自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。最後に「まとめる・振り返る」過程では、儀兵衛の生き方と自分の経験や考えとを比べ、感じたことなどを簡潔にまとめさせるようにする。

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等	
つかむ 見通す	10	みんなで	<p>1 司会団が前時の振り返りをする。</p> <p>2 司会団が本時のめあてや学習の流れを確認する。</p> <p>伝記を読んで、調べたことや考えたことを人物事典にまとめよう。</p> <p>3 教師の補説を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4のまとまりが学習範囲だな。 「偉大な功績」って何だろう。 「人物事典」を早く完成させたいな。 	<p>学習が主体的に進められるよう司会団と事前打ち合わせを行い、効果的な導入を行う。</p> <p>単元を通した「人物事典」作りによって、意欲の持続化を図るとともに、学習の成果を作品としてまとめることよさを実感させる。</p>	<p>学習計画表</p> <p>学習過程の短冊</p> <p>人物事典のモデル</p>
調べる	5	グループで①	<p>4 浜口儀兵衛の行った「偉大な功績」について読み取り、考えたことを交流する。</p> <p>儀兵衛の「偉大な功績」から、私たちは何を学ぶことができるのだろう。</p> <p>(1) 4つの役割に分かれて、調べたことを発表する。 〈予想される活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 広村堤防の写真等から、気付いたことや感じたことを述べる。《イラスト係》 儀兵衛の「残した言葉」を中心に、心に残った叙述を紹介する。《照明係》 現在でも堤防が大切にされているのはなぜか等の問いを見付ける。《質問係》 自分の経験や見聞きしたこととのつながりを考えて紹介する。《思い出し係》 	<p>リテラチャー・サークルの手法を取り入れ、「イラスト係」「照明係」「質問係」「思い出し係」の4つの役割に分かれて読ませるようにし、儀兵衛の業績を多面的に捉え、自分の考えを広げたり深めたりさせる。</p> <p>デジタル教科書や、稲むらの火の館（和歌山県広川町）から取り寄せた資料等を自由に活用できるようにしておくことで、子どもの「やってみよう」の思いをふくらませていく。</p>	<p>学習シート</p> <p>浜口儀兵衛に関する資料等</p> <p>ICT 機器</p>
	8	グループで②	<p>(2) 私たちが学ぶべきこととは何か、それぞれの意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助の意識と共助の意識が大切なのではないだろうか。 百年後のふるさとのことを思い、行動することが大切だと思う。 <p>(3) グループで話し合ったことを全体で発表し、まとめる。</p> <p>目先のことや自分のことだけではなく、百年後のふるさとを思い、人々が助け合うことの大切さやあきらめないで努力し続けることの大切さを私たちは学ぶべきである。</p>	<p>※ 伝記に描かれた人物の言動や業績などを多面的に捉え、自分の経験や考えと比べながら読むことで、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ディスカッションの様子の観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを広げたり深めたりできている子どもには、文末表現を工夫させ「～べきである。」などのように意見や提案として書けるよう助言する。 ○ 自分の考えを広げたり深めたりできていない子どもには、「百年後のふるさとを守る」という題名を手掛かりに考えさせる。 	<p>ホワイトボード</p>
まとめる	10	みんなで	<p>5 グループディスカッションを通して、感じたことを人物事典に書く。</p> <p>6 教師からまとめの補説を聞く。</p> <p>7 司会団が今日の学習で学んだことをまとめる。</p> <p>伝記を読むということは、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えるということである。</p>		
振り返る	12	みんなで	<p>8 分かったことや頑張ったことなどを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの読みを交流するっていいな。 これから、もっとたくさんの伝記を読んでいきたいな。 <p>9 司会団が次時の学習を確認する。</p>	<p>新たな読書の楽しさに気付かせ、これからも幅広いジャンルの本を読んでいこうとする意欲を高めていきたい。</p> <p>司会団への称賛や、かわり合うことで互いに読み深めることができた喜びを価値付け、自信へつなぐとともに、次時への意欲付けを図る。</p>	<p>学習シート</p>